

回想療法（新技術なし）

文献ID	筆頭著者	発表雑誌	発表年	研究デザイン	目的	対象者	対象数	評価法・項目	介入・暴露	介入の頻度	介入の期間	対照療法	主要評価項目	結果	結論
CD001120	Woods B	Cochrane Database of Syst Rev.	2018	SR メタアナリシス	認知症の人に対する回想療法の効果を評価するためにメタアナリシスを行う				回想療法					認知機能に対しては(SMD 0.11, 95% CI 0.00 ~ 0.23, 14研究, 1219人)効果は非常に小さいか不明確であるとされた。QOLに対しても(SMD0.11, 95% CI -0.12 ~ 0.33, 8研究, 1,060人)効果は無いとされた。うつ症状に対しては(SMD0.03, 95% CI 0.15 ~ 0.1, 10研究, 973例)も効果は無いとされた。	回想療法は認知機能に対してはわずかな効果がある可能性があるが、QOLとうつ症状に対しては効果が無いと考えられた。
35348260	Saragih ID	J Psychiatr Ment Health Nurs.	2022	SR メタアナリシス	認知症の人に対する回想療法の効果を評価するためにメタアナリシスを行う	2022年1月1日から2021年4月16日まで出版された文献に対するメタアナリシス			回想療法					認知機能に対しては(SMD 0.45, 95% CI 0.24 ~ 0.67, 15研究, 950人)有効性が示されている。QOLに対しても(SMD 0.47, 95% CI 0.21 ~ 0.73, 7研究, 1,050人)有効性が示されている。うつ症状に対しても(SMD -0.53, 95% CI -0.70 ~ -0.36, 16研究, 1,272人)有効性が示されている。	回想療法は、認知機能、QOL、うつ症状に対して有効と考えられる。
27093052	Woods RT	Plos one.	2016	RCT	本人と家族と一緒に参加する回想療法の有効性の検証	地域在住の、DSM-IVの軽度から中等度の認知症患者	488例を268例の介入群と220例の対照群に無作為割り付け。解析群は合計350患者・介護者ペア(介入群206例、対照群144例)	主要評価項目: QOL-AD, General Health Questionnaire (GHQ-28), 副次評価項目: 自伝的記憶, ADL	出版された治療マニュアルに従った回想療法。テーマは、子供時代、学生時代、社会人生活、結婚生活、休日と旅。自宅から回想を促す物品を持ってくるよう求められた。	介入期間は毎週、維持期間は月に1回	12週間とその後の7か月間の維持期間	通常ケア	QOL-ADとGHQ-28	ITT解析において、全ての主要評価項目と副次評価項目において回想療法群と通常ケア群との間に有意差がなかった。逆に介入群の家族の不安が高まった。より多くの回想療法セッションに参加した人と家族では自伝的記憶とQOLが改善したが家族のストレスは増加した。コスト解析では、費用対効果は低いという結果になった。介入による直接的な有害事象はなかった。介入群の57%しか10か月間に半分以上の回想法に参加しなかった。対照群は高率に脱落した。	回想法は費用対効果の高い治療法とは言えない。
33176394	Justo-Henriques SI	Int J Geriatr Psychiatry.	2021	RCT	神経認知障害を有する人に対して、個別回想療法が、認知機能、記憶、実行機能、気分、QOLに有効か否かを検討する。	ポルトガルの高齢者介護・支援サービスを提供する施設に通う、DSM-5の基準に従って神経認知障害の正式な診断を受けている65歳以上の患者	介入群131例と対照群120例、ITT解析実施	MMSE, 記憶テスト(MAT), 前頭葉機能検査(FAB), 老年期抑うつ尺度-15(GDS-15), QOL-アルツハイマー病尺度(QOL-AD)	トレーニングを受けたセラピストによる回想法。セッションの内容には交通手段、電化製品、住宅、メディア、職業、衣服、俳優と司会者、政治、地域/地方について、画像付きカードや音楽、など、テーマ連想ワークシートも使用された。	1回50分、週2回	13週間	通常治療	MMSE	ITT解析において、回想療法群は、対照群と比較して、MMSE, MAT, QOL-ADにおいて有意によく改善した。しかしFAB, GDS-15において有意な改善は認められなかった。	個別回想療法は、神経認知障害患者の認知機能とQOLを改善させる。
CN-02007517_31645180	Li M	J Geriatr Psychiatry Neurol.	2020	RCT	軽度から中等度のADの人の認知、うつ、精神症状、ADLに対するグループ回想法の効果検証	65歳以上、NINCDS/ADRDAのpossible probable AD、CDR1か2	90例が介入群と対照群に割り付けられた。解析は43例の介入群、42例の対照群で実施	ADAS-cog, CSDD, NPI, Barthel index, 介入前、4週後、12週、24週(介入後12週間たった時点)	回想法のテーマは、食事と料理、家族関係と初期の思い出、過去の家、患者の結婚式に関連する品物、個人的なコレクション、労働条件と環境、歌と音楽、古い映画、初めての人生の出来事、変化と喪失、お祝いなど。	30 ~ 45分のセッションが毎週2回	12週間	通常の薬物治療と通常のデイケア	ADAS-cog	2群間でADAS-cogには有意差を認めなかった。回想療法群では、CSDDとNPIで有意な改善あり。うつは12週、24週後に最も改善が大きかった。介入前のCSDDの得点はほとんどが5点以下で異常なうつ症状は認めない対象であった。	回想療法は、アルツハイマー病のうつと精神神経症状に有効であるが、認知機能と、ADLには効果がなかった。